



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く 10時~16時

Web URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/>

E メールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp



(写真左上) 被災者支援交流会で炊き出しに励む ^{ははそ} 柞の森音楽祭実行委員会のみなさん
(写真左下) 谷戸まつりのわら細工 (写真右) トーキョーレンジャーズのみなさん

秋の谷戸には多くの人々や団体が訪れて、当会の活動に参加しました。恒例となった団体の作業参加や例年通りの訪問の様子のほか、新たに大活躍してくれた団体などの特集記事をご覧ください(2・3p)。山崎の谷戸をベースにした里山保全活動の静かな広がりを感じます。放射能の影響については、しっかりとした対策を取って対処しています。詳細は6Pをご覧ください。

もくじ

☆特集・谷戸往来→2・3p

☆各班からのお知らせ→4p ☆谷戸の自然だより→5p ☆放射能検査に関して他→6p ☆谷戸の体験学習→7~9p ☆1~3月の日程表(裏表紙)

春の七草&どんど焼き1/14(土)14

時半~野外生活体験広場(少雨決行)

※引き換え券の頒布があります。

※団子、七草粥は数に限りがあります。

※お椀・お箸をご持参ください。



特集 秋の谷戸は大にぎわい!

谷戸往來 谷戸往來 谷戸往來

NEW 被災者支援交流会 11/19 (土)

柞^{ははそ}の森音楽祭実行委員会、鎌倉市、当会共催で鎌倉市内に避難している方々が集いました。あいにくの天気でしたが、市長も列席され、谷戸の収穫物を皆で味わい、当会の紙芝居も楽しんでいただきました。感想を紹介します。

★とても自然豊かで、とてもみなさまの心、気持ちあたたかさを感じられる1日でした。★鎌倉は初めて参りました。人も良く、景色もよく

本当に嬉しく思います。
鎌倉の皆様と色々な
話ことができましたこと
嬉しく思います。



かながわ子ども・子育て支援大賞・交流会に参加 10/28 (金)

地域に根ざした子ども・子育て支援活動を行っている団体が、多数発表し、交流を深めました。当会はこども一日里山体験、里山お泊り体験の事例発表をしました。

鎌倉中央公園フェスティバル 10/30 (日)

当会から提供の米を、公園協会と当会スタッフでおにぎりを作り、来園者の方々に味わっていただきました。毎年出店で展示している、山崎・谷戸の会の活動写真も人気でした。



保育士研修講座 10/29 (土)

今年も市内公立保育園から9名が参加し、谷戸で遊ぶマナーや水路の草刈りを体験しました。★いつも利用している公園が、谷戸の会の方たちの努力で、ありのままに体験できる状態になっていることに「感謝」です。(山崎保育園 松井エツ子)★園児に自然を感じさせる事ができる、まず一番の場所だと思っています。(寺分保育園 寺崎恵子)★数年前の研修で訪れたときと今回の様子を見て、私達もこの谷戸の自然を保っていく一つの足跡になったの



かなと思いました。(材木座保育園 安藤祐二)

かまくら食育クラブ員養成講座 11/6 (日) 鎌倉市市民健康課主催

今年も講座の実習が谷戸で行われ、14名の方がさつまいも掘りと、小麦の種蒔きを初体験しました。土に触れることの楽しさを、存分に感じてもらえたようです。



収穫物を寄付

今年もたくさんの収穫物が獲れ、被災者支援の炊き出し、近隣町内会、青空自主保育、深沢地区社協、鎌倉風致保存会などへ寄付しました。

NEW

トーキョーレンジャーズの受け入れ開始

環境保全活動に関心のある東京近郊の若者たちと各地のNPO活動との橋渡し事業をしている認定NPO法人自然環境復元協会により、11月から3回、ボランティアの受け入れを開始しました。大学生から社会人、若い親子の参加がありました。★土のおいもなんだか懐かしく、まるで子どもの頃に戻ったような、とても楽しい時間でした。(相原 薫)

★私は大学にて畑で野菜を作るサークルに所属していましたが、引退後は土に触れる機会がほとんどなかったので、ひさしぶりに畑仕事ができうれしかったです。(望月麻希)

★住宅街からこんなに近いのに、鍬を持って汗を流すことが出来るし、自然との調和、年代を超えた交流の場として素晴らしい憩いの場でした。(岡田)

NEW

富士塚小の地域交流授業

11/10(木)・11/29(火)

地域の方との交流授業を積極的に行っている富士塚小の4年生が、当会会員の川上克己さんから話を聞き、昔の農具に触れ、竹笛など、昔の遊びを体験しました。



サトイモとどろんこ

11/9(水) かまくら子育て支援グループ懇談会主催

42組84名の親子が参加し、さといもを素手で掘り出しました。子どもたちは、親いもからちぎって洗うことにも積

極的。「このようにしているのを初めて知った」と驚くお母さんたち。蒸かしたてのおいもそのものの美味しさを知ったようです。



鎌倉「てらこや」の活動無事終了

今年も当会が、米作り体験を指導しました。★一番心に残っているのは、だっこくです。足でふんだら、すごい音がしてお米だけとりだせるのが、すごかったです。(小3 田辺 霞)



アジアの研修生が谷戸を訪問 NGO「PHD」主催 11/13(日)

日本で1年間、農業や保健衛生の研修を行うネパールとインドネシアの若者3人を含む総勢7人が、日本のNPOの環境保全活動を学びに当会を訪問。谷戸の農産物を振舞い、当会の会員たちと昼食交流会を共にしました。



秋の谷戸まつり 11/27(日)

天気にも恵まれ、たくさんの来園者があり、お餅つき、わらで作る山崎ならではの正月飾り、ちょっと変わった竹とんぼや雑木の切り出しペンダントなど、多くの方に楽しんでいただけたようです。近隣町内会のみなさんにもお手伝いいただきました。本当にありがとうございました。★のどかな秋の一日、皆様が丹精込めて作られた食材を使ったおにぎり、谷戸鍋、お餅などの美味しさを多くの方とご一緒に楽しく味わえる幸せ。大震災に揺れた今年だからこそ、それをしみじみと噛みしめた一日でした。(大平山丸山町内会 澤栗)

各班からのお知らせ



田んぼ班

★1/15 (日) 堆肥の切り返し
★22(日)、29(日) 苗床の耕し

秋の谷戸まつりでおにぎりやおもちを味わっていただけましたか？ 粃干し、粃すり、精米は使用行事に向けて少しずつ行なっていますが、多くの活動団体へ早く寄付できるように作業を頑張りたいと思っています。重いお米を移動させる作業が多いです。力に自信のある方、お手伝いをお願いします！



粃すり・精米



畑班

★1/8(日)落ち葉かき ★15(日)堆肥場と畑の整備
★22 (日) 荒起こし ★29 (日) 小麦畑の草取り・土寄せ



今年は土作りにより一層力を入れたいと思います。そのためには、この時期の作業がとても大事で、畑の荒起こしや天地返し、落ち葉集めに堆肥作り、という一見地味な作業が、実は豊作の鍵を握っているのです。冬の畑仕事は寒そうですが、体を動かすと温まって、心身共にほっこりします。あなたも一緒にいかがですか。



雑木林管理班

★1/8(日)除間伐 ★9 (月・祝) 竹切り ★15(日) 畑周辺の除間伐
★22日 除間伐

11月の暖かさとは、打って変わった寒さが身に染みる毎日です。雑木林管理班活動の最盛期を迎える季節となりました。使用用具の講習会参加、12月のロープワーク講習を通じ、パワーアップしたメンバーで雑木林の間伐、下草刈りに取り組んでいきます。雑木林の保全にご興味のある皆様の参加お待ちしております。



たのくろ豆の殻出し



農芸班

★2/3 (金) 味噌作り

たのくろ豆が豊作だったおかげで、去年よりたくさん味噌を作ることができそうです。作り方を体験して、是非ご自宅でもチャレンジしてみてください！

父と子の里山体験

★2/19 (日) 「雑木林の除間伐と火起こし体験」



12/11の里山体験では「港北ニュータウン緑の会」の飯田氏を講師に招き、なわの結び方を教わりました。雑木林でなわの力を利用したミズキ伐採を体験し、なわを扱うことの面白さと可能性を学んだ一日でした。

★1/22 (日)・2/12 (日) 連続企画
こども里山一日体験「ヒメコウゾで紙漉き」

谷戸に自生するヒメコウゾで紙漉き体験をします。冬の里山でぐつぐつ木を煮て、とんとん叩き、繊維をゆすって紙を作ろう！

谷戸の自然だより ～晩秋から冬へ～

9月22日の台風の塩害で落葉し、10月には丸坊主になった木が多く、そのショックで新緑が芽吹いた木々が目立ちます。地形によっては塩害を受けずに見事に紅葉している斜面もあり、今年の晩秋は紅葉と新緑が同居する不思議な景観でした。暖かい日が多かったので紅葉は一週間ほど遅れたようです。また、10月から12月の大雨が来ないはずの時期に、台風並みの強風や大雨に見舞われるなど、温暖化を思わせる異常気象でした。

～ オギとススキ ～

晩秋から冬にかけて、枯れたススキの穂が目立ちます。谷戸のススキには2種類あるのをご存知ですか？湿地に生えているススキのような植物はオギなのです。荻窪^{おぎくぼ}という地名や、荻原という苗字がありますが、名前の通り、窪地（谷戸）に群生する植物です。谷戸では道端や土手にススキ、湿地はオギと住み分けていますが、道端でも湿った所にはオギ、湿地の中でも畔跡地のような乾いた所にはススキが生えるので、どちらか迷うこともあります。見分け方は下の表を見てください。オギとススキは環境や茂り方で見分けられますが、谷戸のように両種が入り混じる所では、種子を観察して識別しないと間違いやすいでしょう。オギの茂り方で谷戸の湿地の状態がわかります。田んぼをやめると最初にアシが生えてきますが（長靴でないと入れない湿地）、その後乾燥してくるとオギに移り変わり（踏み込むと靴が濡れる）、完全に乾燥するとササや樹木が茂った藪になるようです。カヤネズミ、キンヒバリ（小さなコオロギ）など谷戸の湿地は貴重な生物の生息地ですが、アシかオギが生えている状態で存続させることが必要です。また、オギ原は野鳥の冬の餌場や生きものの隠れ家としても大切です。オギの穂（種子）はホオジロやアオジの食料となり、冬のオギ原に生える青々としたセリはノウサギや野鳥そして人間も利用します。稲刈りの終わった田んぼとオギ原が混在するような環境が、

冬を過ごす生きものにとって過ごしやすいのです。山崎の谷戸のように周辺を住宅地で囲まれている“都市型”の里山では、一面の田んぼだった昔の里山よりオギ原が混在するような少し荒れた状態が生態系には最適なのだと感じます。とは言え、オギ原がササ藪に変わらないよう“少し荒れた里山”を保つためにも適度な手入れが欠かせません。田んぼの周辺の湿地をどのように手入れをするか、試行錯誤していきたいと思います。

	環境	外観	種子
ススキ	尾根など乾燥地	一株ずつ独立して生えているように見える。	種子の先端に一本の長いノギ（毛のようなもの）がある。
オギ	谷底などの湿地	つながって生えているように見える。	種子の先端に長いノギがない。



生態系保全班

★野鳥観察 1/22 (日)

谷戸にシベリアから冬鳥がやってきます。冬越しする野鳥をゆっくり観察しましょう。



植物育成班

★野草生育地の手入れ 1/25(水)

野草の多い昔ながらの土手を、丁寧に草刈りしながら、春を待つ野草を観察しましょう。

～訂正～ 前号P2、写真の生きものの名前が間違っていました。

ジョウビタキ→ヤマガラ、ナガコガネグモ→コガネグモ

放射能(核種)検査についてのお知らせ

園内の大気中の放射線量の測定は7月より実施していますが、より多くの方に安心して活動に参加し、谷戸の収穫物を味わっていただくために放射能(核種)検査を実施しました。収穫物については市に要望し、米、小麦、さつまいもの測定を実施しました。結果は市のホームページに掲載されています。枯葉、薪については公園協会と当会で測定しました。結果は以下の通りです。

枯葉		大気中の放射線量		薪	
◎小段谷戸階段付近(11月採取)		◎小段谷戸階段付近		◎コナラ(2010年度伐採 屋外野積み)	
ヨウ素131	不検出	地表から		ヨウ素131	不検出
セシウム134	54	10 cm	0.054	セシウム134	不検出
セシウム137	84	50 cm	0.051	セシウム137	4
合計 138		100 cm	0.045	合計 4	
◎疎林広場階段付近(11月採取)		◎疎林広場階段付近		◎コナラ(2011年9月伐採 屋外野積み)	
ヨウ素131	不検出	地表から		ヨウ素131	不検出
セシウム134	52	10 cm	0.053	セシウム134	不検出
セシウム137	84	50 cm	0.059	セシウム137	不検出
合計 136		100 cm	0.053		
		※測定値は マイクロシーベルト毎時			

枯葉、薪の単位:ベクレル/キログラム *ベクレル:放射性物質が放射能を出す能力を表す単位

検出限界値:ヨウ素約2ベクレル/キログラム、セシウム約5ベクレル/キログラム

検査機器:3インチのヨウ化ナトリウム・シンチレーションカウンター

検査結果を受けて、市、公園協会と話し合い、灰、粃殻、糠、小麦のふすまは使用を控え、収穫物については通常通りの扱いとしています。粃殻くん炭、体験学習の落ち葉かきは自粛とし、その他の活動については実施予定です。今後も必要があれば検査していきたいと考えています。検査結果は随時公表していきます。今後も状況を見極めつつ、活動内容の変更も見込まれます。末永く安心して活動できる場所であるように努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

谷戸雑報

里山保全ボランティア講座 11/5(土)最終回 かながわコミュニティーカレッジ連携講座

今年で2年目の開催ですが、座学より実作業の多い講座にしたことで、会員との交流も深まり、さまざまな活動の広がりがありました。★山崎の谷戸には楽しいことや、里山ボランティア講座に参加して興味あることがたくさん転っていることに気付かされました。このような理解の仕方は、座学では得られないことなので、体験学習をさせてもらって本当に良かったと思っています。(平田幸雄) ★研究の一環として初めて参加した時は、上手く溶け込めるかどうか不安でいっぱいでしたが、会の皆さんや同じ講座に参加している方々と活動と一緒に行動することが出来てとても楽しかったです。(濱野祥子)

